

「犯罪・非行をした人の立ち直りについて私たちにできること」

高砂市立伊保小学校 6年 塩田 悠陽



私は幸せなことに犯罪や非行を経験したことがありません。ただ、髪を染めて気づいたことがあります。それは、親せきや友達の中には髪を染めているだけで不良だと偏見をもっている人が意外と多いということです。私は犯罪や非行をした人が立ち直るのに、この偏見が邪魔しているのではないかと考えました。犯罪や非行をした人の立ち直りについて自立支援や地域での取り組みといった「する優しさ」に目を向きがちだけど、これは私たち小学生にはなかなかできません。ですが、偏見をもたない、差別をしないという「しない優しさ」を持つことは私たちに小学生にでもできることだと思います。

偏見や差別の背景にあるものは、思い込みや先入観、無関心、少数者の問題だととらえてしまうことなどがあります。また、人は誰でも無意識に思い込みをしてしまっているそうです。自分の思い込みを意識して、なくすための行動を始めることで、思い込みにとらわれない新しい考えを見つけることができます。無意識にしてしまう思い込みをなくす方法は、自分以外の視点を増やすこと、さまざまな人に出会うこと、本を読むことだそうです。自分で得た情報や人から聞いた情報、メディアから得た情報など、情報チャンネルを増やすことで、さまざまな角度から見た情報にふれることができます。また、自分とは違った考えや異なる環境で育った人との接点をできる限り多くもつことも自分の考えの幅を広げることに役立ちます。同じタイ

プの人とばかり付き合うことは、楽しいし安心感がありますが、知識や経験が似ているので同じ思い込みを持ち続ける可能性が高くなってしまいます。時には、苦手だなと感じるような人とも接してみるのも大切です。そのようにして、いろいろな人や情報と交わることで、自分が正しいと思っていることは自分の思い込みで、相手にとって「正しいこと」とか「間違っていること」は全く別の軸として存在することに気づきます。

私は一文目で、「犯罪や非行を経験したことがないのは幸せなこと」だと述べましたが、さまざまな情報から私になかった価値観にふれると、これも私の思い込みにすぎないことに気づきます。犯罪や非行を肯定するわけではありませんが、それを経験したからこそ周りの存在に有難さを感じてお医者さんや先生になって社会に貢献している人や、心豊かに幸せに過ごしている人がいると知ったからです。この作文を書くまで、犯罪や非行をした人の立場になって考えることがありませんでした。立ち直ろうとする時に、自分ならどうしてほしいかを想像することも大切だと思いました。

このように、いろいろな視点をもって人や情報にふれ、私たち自身も持っているたくさんの思い込みに気づくことで、偏見や差別は減って明るい社会に近づくとと思います。私は偏見や差別を「しない優しさ」でセカンドチャンスに応援したいと思います。